

変え難い性質と組織姿勢

体質、性質に合った形で業務を進めたとき、能力とされている多くが発達する。指示通りさせると、発揮されない能力が多く出てくる。人材の性質を見極めておくと、無駄なことをせずに、成果をあげやすくなる。下記は、個人の体質、性質によるため、強制したり、評価したりできない内容である。

《人材の性質をつかんでおく》

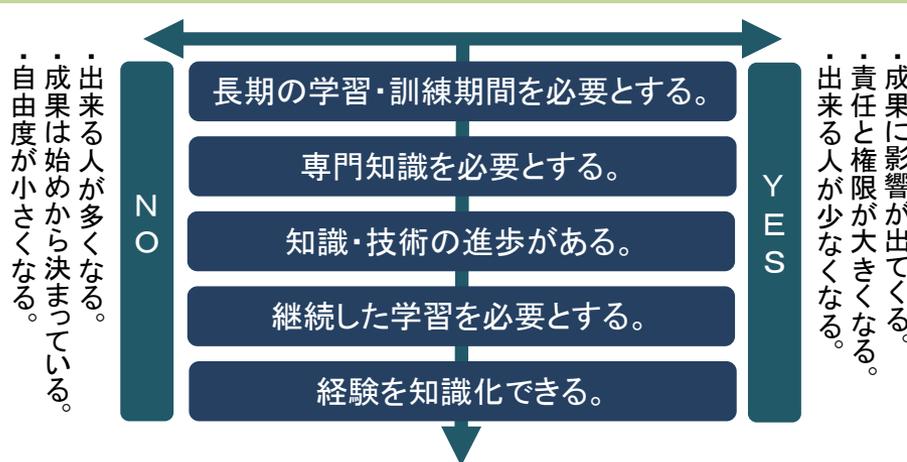
- ①一人でする方が良いか、チームでする方が良いか。
- ②リスクは背負えるか。どの程度までのリスクか。自らが決断するか。
- ③新規性を追うか、同じ繰り返しが良いか。
- ④大組織が良いか、小さい組織が良いか。
- ⑤書く方が良いか、話す方が良いか。(読む方が良いか、聞く方が良いか。)
- ⑥仕事に追われながら進める方が良いか、余裕を持ってする方が良いか。
- ⑦師を仰ぐ方が良いか、1人で考える方が良いか。
- ⑧自分でしないと気がすまないか、他の人に任せられるか。
- ⑨材料を整えてからスタートする方が良いか、整っていないくてもスタートできるか。
- ⑩じっくりと検討し、計画してから仕事を始める方であるか。

知識を使って仕事をする者は、現在では80%を超えていると言われている。今後、その比率は高くなっていく。個人が人材として能力を発揮するパターンは異なる。仕事の方法、スタイルを統一するのは難しくなる。強制しない方が成果があがりやすくなる。

個々の性質を理解し、仕事の性質と組み合わせで行かねばならない。

自らが自らを理解しているとは限らないから、観察する必要がある。

働き方自体が変化する可能性が出てきている。



人材としての有用度が高くなり、伝承が可能になる。



知識レベルが高くなるに従って、性質に応じた仕事の方法が強く現れてくる。自らが最も成果をあげやすい方法になってくる。

知識レベルが高くなると協働の意味を理解する。一人で仕事をする方が良い者も、協働での自らの役割を果たす。

現在の仕事の方法は、工場労働からスタートしている。仕事環境のインフラの発達にともなって、成果をあげるスタイルが多様化する。